





暉峻康隆先生
手寫
頂戴



序

享保十六亥年の色は雲とりの小

舟と作り——ら素丸度名長水度名

宗瑞蓮之列号咫尺子号とくあり

柳宗睦之子ハの——のあり

後もおの馬氏との船ありとあり下

ゆらびら——の月かくの變化あり

幸常の世乃の心ありとあり存

とのありとありとありとありとありと

ゆらびら——の月かくの變化あり

後もおの馬氏との船ありとあり下

ゆらびら——の月かくの變化あり

後もおの馬氏との船ありとあり下

跡より〜なるの〜終〜
規矩董子忘下尔爾所〜
公事公〜筆と原〜

寛延四年五月



叙

古蹟銘り〜
乃命もか〜
墨子〜
清も〜
〜

かゝる世乃人の心はくはるるは
わづらふと成るはくはるるは
母子乃輩 如くはるるは
うらみと成るはくはるるは
誓う者しるはくはるるは
りく集るるはくはるるは
あつと成るはくはるるは

董をくみ中 悉ら終るるは
我よりくはるるはくはるるは
人こそみら上としるるは
あつと成るはくはるるは

夕可高馬光



點譜

文昌星 五點倍 五字十、三字七、
朱六、長三、九二、

白兔園 宗瑞

南浦雲 十五點 三字十、二字七、
朱六、長三、九二、 鱗 一點倍

絢堂 素丸

わうり 十五點 四字十、三字七、
二字六、長三、九二、

石中堂 斑象

醉中觀 七點 翠蓋 十六 四字十、
三字七、二字六、長三、九二、

雪中菴 蓼太

崑山美玉 十八點 三圈十五、雙圈十、
一圈七、朱六、長三、

北窗菴 竹阿

新中一

竹阿

鐘ゆりか

素丸

ワ

斑象

宿へ

蓼太

身

丸

暇

象

判者 宗瑞

文昌星一

男山

是五鳳樓宇一

帝廟

帝廟上

神心寺

何より端

白糸山

和山秋藤

朱七

白糸

白糸

中河

白糸

白糸

河洗川

長十九八

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

宗瑞

班家

梨太

竹阿

京

太

荆南守城

文昌星

男山

是北風樓子一

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

帝

和聲之竹矣也

所

月

其

極

之

宗瑞

班象

莫太

竹阿

象

太

り
徳川の苗字と仰り切く
彼乃人其名を知り居り
茂く貴族の風を紀の井原に
當る所の嘆と仰りし
駒下駄の友と仰りし
何と仰りし、榮子乃公
葬の最アサヒに
月んとし、荒れ居り

河 瑞 古 家 瑞 河 家 太

二
前髪と一書有るなり
和名之能治原に於て
書込の花に書込の戸極哉
是はつれしと云ふ、入島
雖も日し作る事と存、向
朝の河に、瑞と云ふ
家名つゝ、瑞と云ふ
新雲、瑞と云ふ、乃渡舟

瑞 家 河 瑞 太 河 瑞 太

漢楚中々之國志中々中々
 山々山々山々山々山々
 中堂としし中々の中乃あり
 風々風々風々風々風々
 立湯とし二日之日中々
 中々中々の火中々中々

河 象 太 瑞 象 河 太 象 河

園中々中々中々中々中々
 中々中々中々中々中々中々
 走り井中々中々中々中々
 中々中々中々中々中々中々
 中々中々中々中々中々中々

瑞 太 象 瑞 方 河

判者 素丸

西山雨一

走り并り

朱藤三

お髪

年お後舟

山姥のまゝ

朱五

けき

月見

白濁

一点増

松の戸

玉お巻

玄ハ丸四

名身やおまの水とわらわ

素丸

亭(一)店もと屋お前

蓼太

お松の⁺氣志度と向く

竹阿

之里とまゝと如便所く

宗瑞

尾おふしと心持とるお花

右

物のあはれおはしと身おま

何

う
 高橋くは戸の息吹はあはれ
 手お吹聴ウイニテウし柿の吹聴
 三の十八お感とくくるは
 江中お影をさしやう
 汲らるる海かたはるる海を
 ありあり見れば浪の極
 河原はくはくはくはくはく
 船細竹く馬とみお少使
 河 方 浪 丸 太 河 丸 瑞

二
 標るくは珠おし守家お慈送
 出来去の月おらん主
 花はあはれとくはあ山一
 浮世のふもさふも長果は
 今おはるるまはたは信物お
 子産め乃けしやう
 し行々着る吹らね竹杭
 今もあはれとくはあ山一
 河 太 浪 河 丸 浪 方 丸

何にか古河家神の物と云
是は御代に傳へられたる
編纂の事か長に傳へ
宗の所かまじし印の所
何事と云ふか
親しくいふ事
舟長
河川の事か
是も這はる事

丸 古 河 太

二
誰かよふ似し所か
公の事か
相の事か
相親の事か
傳馬の事か
杖の事か
うらまの事か

丸 太 凡 河 湯

判者 斑象

九月暗爵一

江中お形

秋風簾九

月お触玉

浮世の巾

浪栖抄

産のあけ

物くくえん

燗燗

比来お形者

何事

浮き

善堂十

ワキ

ナシ

竹代

江中お形子

ワキ

ナシ

舟

ワキ

板橋

白花

長九 九三

班象

怪人、小触、座、中、為、お、朝

都、く、く、の、去、産、く、備、の、火

和、粉、し、と、お、お、お、お、お

何、く、何、お、お、お、お、お

若、お、お、お、お、お、お、お

教、入、お、お、お、お、お、お、お

竹阿

宗瑞

素丸

阿

瑞

ウ
おのゝほおくとし初乃焼明

香煙のぬお徳よ小慶長寺

おのゝほおくとし初乃焼明

強おくぬお徳よ小慶長寺

おのゝほおくとし初乃焼明

野中の曇よゆり初乃焼明

おのゝほおくとし初乃焼明

九 象 河 瑞 丸 河 象 九

燕燈も輝くか家日初乃

碎のよわく居并日乃鐘

おのゝほおくとし初乃焼明

おのゝほおくとし初乃焼明

正月お徳よ小慶長寺

雲の荒とし初乃焼明

井お徳よ小慶長寺

九 象 河 瑞 丸 河 象 九

皆ありや兒孫中の長壽々々
ついで面を如卸也悟々
直下より骨膚を平じきま揃
くハハ時流をくぬめ走り机
と懐し躰一處より因果經
を如くしき法に場人
本屏と集一ツ月一ツ
尻屏一ツ款も一トりし

丸象瑞凡何象瑞何

柱也くくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

丸象瑞何象瑞何

判者 蓼太

百花齋語一

山すしの澤

弄晚涼三

ゆきせ子 舞にくる

所に徳毫

探首五

牛ら 金を舞一 一く金

文ら 長すくく

長六九四

蓼太

宗瑞

素丸

雅象

為

丸

年志清ら身に被る来のるら

身にゆくはの門に有明

麻の織り備へらに帳控く

所に先の茶賣降賣

流に流る川に流る

あらわくの久くく思ふ

然る所を糸と和らぐやう杭
宗月までしも脱ん中し
かひらうとあつらうとんをきき
七つ入の子と漏りとし七折
くまの屋を敷けを各通せん
越乃を締りも和ら知丁
あまの梅の色も凍ゆりし
あまのもあつらうの骨口

太 丸 太 丸 太 丸 太 丸

姑の園子月おのり法流
室乃うりとりと洞らりし
徒舟をすしと稚の舟もむかき
あまのしとあまのしとあまのし
あまのしとあまのしとあまのし
あまのしとあまのしとあまのし
あまのしとあまのしとあまのし
あまのしとあまのしとあまのし

太 丸 太 丸 太 丸 太 丸

かゝる世に神とし青國の必しき事
振くもく為るハ例のまじ
法も隆天と増きし佛あり
後も白く翠麓の 水は
懐きりけりみみりらる
志の細小りんと高人
治のまじりてありおる細細
指くちまを神の神は

九 右 象 右 九 象 九 漏

ニ
泉えし海に神の情懐も
り那し乳母の痛と動かし
表端にかりておの家のつし
福しかりんと程多し
こゝろ新吉野したくの真意
名解のわがみは

九 象 太 九 漏 象

判者 竹阿

雙圈一

竹阿の阿

七の八子

朱の

朱の

朱の

朱の

長九

くさん

朱の

朱の

花

後

一天美回多可花白心秋風

如之吹之慕色つく亭保所

能年終交友奇細沢繼く也

ふふ雲如影一一中と世と飲如

而一一物之夕可席下と平

門人女子物之夕可席下と平

お守しと判と所中りとく續立五
善とよきふ風流と云ふ河の地
有松ありとくわあつて是と
歡が好めるとすみ鎮所ハ近く
宋の東坡ハ白沢作と毎門お
み早姫と回和船お何とく
河獵のくくまんと人く結湖の

真意は物とてしきくつと免
忘はるしおとら酒中とくた書也
初く菊の能分知るも知る
如し芭蕉居しとよあ記何つる
此とも酒の分た紙糸つとお紙
糸うらみ一折お運し地鱈皮肉
骨乃境しとく路とく一毫

成新朝の巻く多しと云
五の朝新古代はあし道と曲
能くとりて己の姿を正し乾る
手あふれし油紙とつて能く
實の深志はしるは所や
馬光を人とし能く
尔時を遠親ししは又殊う

あはれはあはれなり
九人あはれしといふ十人自ら友は
わらうわらうとて世に
あはれとてあはれはあはれなり
わらうわらうとてあはれはあはれなり
わらうわらうとてあはれはあはれなり
わらうわらうとてあはれはあはれなり

吏登新

寛延四歳辛未春三月

彫工

芥澤彦七

全

谷村 権六

書林

京堀川 綿七町
西村市 右衛門

全

大坂 丹波 橋本 順彦町
澁川 清右衛門

全

江戸 本町 三丁目
西村 原六

文刻堂書梓目錄

江戸通本町三四丁目西村源六

全二冊

民家分量記

常盤貞尚作 全五冊
土農工商の才おんりつと
しつうかぎしつう

野總名話

河津全四冊 本ノ後篇
神傳佛の大いふ
ついでしつう

民家童蒙解

貞尚作 全五冊
分量記の後に編入の
長考ののちのち

田舎莊子外篇

伏安齋山作 全六冊
庄のあまといふ
庄の若赤といふ

河伯井蛙文談

同作 全三冊 右ノ後篇
ついでしつうの同書と
いふ同く人のの上と

天狗藝術論

同作 全四冊
刺術の真実と志のし
備前流の秘伝を論じ

六道士會録

同作 全五冊
我家の六内共は八半生の
んがけを空記をわつむ

英雄軍談

同作 全五冊
他家のいふをいふ
前代と

近代世事談

同作 全五冊
前代世事談
近世の人事を詳記

今川腰越状

御家流消息

初学消息集

假名文章

万要書札

風月往來

庭訓往來

愛蓮説

帰去来辞

建初買文章全一冊

玉垂夜八筆 全一冊
常用の文章とあつた
しつう

同筆 全一冊
有母のいふと
記す

同筆 全一冊
又札式といふ
書といふ

同筆 全一冊
五至八筆
町方書札入

同筆 全二冊
大字四行

廣澤筆
行書

同名の行書



自隨落 先生 風俗文集 北華輯 及古郡二冊

蝶北遊 全三冊 北華選 松島紀行名所

不思議言 全二冊 自隨落先生作 北華輯

古今智恵枕 酒母室宅輯 全三冊 寄の重宝あるはやうの 信をいらす

武家軍談 全三冊 ひろくろま入

同軍鑑 全四冊 ひろくろま入

武家功者物語 全三冊 ひろくろま入

画圖百花鳥 狩野探幽筆石中子字 全五冊 五か百子といふの 狩野探幽筆石中子字

簿本裁州 上二載の通とわくへい正 小講しつていふとく 梅丸集全四冊 新後明題 遺如集の補遺の事

新後明題 泉景境詩歌集 及入堂上地下の侍 全三冊 芥との記

續景境詩歌集 名家の詩書と集 全一冊

和歌戀衣 大和川の秘話と和歌 和ふのたよりと全二冊 大寶院書作 折本一冊 五代年時書ありと

正運紀略 藤原傳作 全二冊 明の御并加註とまゝとて 大さうのふと神ひす

老子本義 藤原傳先生作 老子学の大義と問答 南郭先生点檢

老子答問書 藤原傳先生著述 藤原傳先生著述 全三冊 自五至八 全初本末

蘆隱稿 南郭先生著述 藤原傳先生著述 全三冊 自五至八 全初本末

明詩選 南郭先生著述 藤原傳先生著述 全三冊 自五至八 全初本末

歷代帝王局 南郭先生著述 藤原傳先生著述 全三冊 自五至八 全初本末

文筌小言 南郭先生著述 藤原傳先生著述 全三冊 自五至八 全初本末

銀燭帖 廣沢先生門人 関源内書

中書指訣 姜廷憲著 全一冊 筆法の義味と注す 折本一冊 烏石先生書 行草手本

芙蓉菴八勝帖 烏石先生書 行草手本

使者帖 烏石先生書 行草手本

登樓賦 同筆 八分字手本

草書千字文 同筆 全二冊 石抄 同筆 行書 全一冊

七物帖 烏石先生技開 高東御書 全六冊

禮部韻 烏石先生技開 高東御書 全六冊

比叢 全二冊 横切本 江戸半大夫一曲といつむ 江戸半大夫 百十巻

前向堂附本 江戸半大夫 百十巻

俳諧のすりみ 大傑 全一冊 前向堂附本

をくまの記 増補色蕉翁四季段の全三冊 去きし四季全神祇の巻 著者泉傳河女とていふ 露月集 全三冊 月次集 全二冊

俳諧句靈宝 同集 月次集 全二冊

同寄進能 同集 月次集 全二冊

同宮邊 同集 月次集 全二冊

同閑の梅 同集 月次集 全二冊

同友安久房 同集 月次集 全二冊

同有渡日記 同集 月次集 全二冊

同犬椿葉 同集 月次集 全二冊

同何名姿 同集 月次集 全二冊

釋親考

伊藤東涯著 全二冊
釈親の稱呼と雅言の
ミレ儒の流と安のす

七經孟子考文

度量衡考

白石先生餘稿

停雲集

翻明令

伊呂波童蒙抄

冠註篋篋篋大全

和刺局方

醫學的

同孫婦の雪

貞園集 全冊

同反古拾遺

同林簾集

同支前集

同水勺兄弟

同井蛙問答

同其砧

同風乃末

同桃楊

同硯沢

百華樓北述 全二冊
四知の佳句 平仙自作多句
ひろくあつめりす

望上遺言 全一冊
能諧の古句を以て後夕を
かたりん

古今集 全二冊
文章の格古人の歌と伝記
実名の格古人の歌と伝記

半溪著 全一冊
其稿と注して初山の便と
かたりん

貞佐七四忌 有佐
平砂集 全二冊

其角嵐雪速忌
寥和集

其角嵐雪追善の歌仙
宋阿集

黒高作 全二冊 硯沢
川清の地行も身仙不

醫要談

阿彌陀如来出現記

宗分禪師語録

捷徑辨義

大般若経轉義

粥飯日用鉢式

遺身往來傳

聖道衣料編

道中行程重寶記

古今茶道論辨

全三冊 未刻
竹山先生撰

全二冊
盛興述のりう

全三冊

沙門華山撰 全二冊
夏言壽徳の文書を序
のりう

竹本一冊

全一冊 旭昌述
鉢式の方法と考(記す)

全一冊 謙勝述
遺身の考(記す)

全三冊
盛興作 全三冊
衣料の考(記す)

全一冊
徳中撰本一冊

全一冊
沢谷庄善撰

同吾妻海道

同あゝの翁

同燒れ茂

同子れ煉

同古すたれ

同老山集

同渡河百員

同江戸七歌仙

同芭蕉林

同拾遺

奥州松嶋伝記 八景
のりうの記 卷々

毛越集 全二冊
俳諧文集 八

全二冊 才仙合ら良書撰
青交堂長巻

洋仙集 全三冊
江戶宗通十評

全一冊 雅人巻々と
黒高集

全一冊 月夜巻と百員と
わん

全一冊 獨吟集
江戸俳諧宗通止人

全一冊
多光連中草衣集

全一冊

全一冊
尚書輯

世萬 江戸御町鑑

全二冊 江戸奉行年
月表 小豆合月小豆定
五月より日心月定
四年有月表町名主
大町町火消いりは組
堀金分内細長外町
委細格等とて之

世萬 江戸方角組合纏附 懐中両面 一枚指

新刻楷書十字文 一冊 鳥石先生筆

新刻草書十字文 一冊 同筆

老子本義徴 全二冊 蘆隱先生輯

春臺碑帖 全二冊 南郭先生作 鳥石先生筆

上父書 全二冊 同筆

唐詩聯選 全二冊 出来

俳諧綾錦

兼忠治涼作 全三冊
原く鳥石と集る注釈と
然俳門流の原流との
同作 全二冊
玉笑 并古首の
のくす安歌愛の序破

綾錦 鳥山彦 同作 全二冊

漢語分韻 全六冊 鳥石山人校 近日板行

能諧卯花衣 二冊 史登輯

能諧温故集 全二冊 連谷輯
九七百年末古入發令并
當時勺加工ノ類之

能諧問答披 全二冊 素先生作
并能諧の古式口語傳

鴻臚頌蓋集 全一冊 龍門先生著
戊辰朝鮮人筆談

俳諧 全二冊 貞佐翁一代分分心

角田川鏡池傳 全一冊 鳥石先生筆

産語

全二冊 春臺先生作

甲陽軍鑑傳解

全三十八冊 官刻全八冊

神代卷參疏

藤兼良述

俳諧續五色墨 近刻

俳諧藪鶯

全一冊 馬光作

易道發亂辨

全一冊 東郭先生作

行書唐詩選

鳥石先生筆
五言絶句
石刻全三冊

角田川鏡池傳

全五冊 近刻
春悵子送符
五於の内

